

早稲田大学 教育学部 物理 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	毎年、大問は2題であるが、文章はモーレッツに長いので、話の筋をつかむ根気強さが必要である。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔 〕	(A) 力学 運動量保存則 エネルギー保存則	(A) 運動量保存則とエネルギー保存則をテーマとした教育的なパターン問題。	標準
	(B) 原子 原子による 線の放出	(B) (A) の現象と対比させながら原子核が線を放出する問題を近似計算させることなく比較的軽く扱っている。	やや難
	(C) 光子と重力	(C) 光子も重力の影響を受けることをエネルギー保存則の範囲で意識させようとした教育的な良問。	標準
〔 〕	光学 (A) 放物面鏡 (B) 球面鏡	光学については、ほとんどが物理というよりも幾何学の証明問題になっている。文章は非常に長いですが、誘導にそって読み進めていくと易しい問題であることに気づくだろう。	基本

〔総合コメント〕

早稲田大学教育学部の物理は、毎年、教育的問題を出題しようとしている意図がみられる。今年は比較的平易な問題であるが、出題者が力みすぎる年にあたると理工学部よりも難しい問題が出題されることも多い。ともかく「備えあれば、憂いなし」である。